

3Mix-MP 法における輪状連結鉤を応用した 歯周病治療の経過報告

渋谷 尚子 Naoko SHIBUYA

渋谷歯科医院 〒334-0003 埼玉県川口市坂下町 2-2-16

【はじめに】

日常臨床において症状の改善が図れない歯周病の難症例にしばしば遭遇する。今回、輪状連結鉤により固定を強固にすることで支持骨の回復をきたし症状の改善を図ることができたので報告する。

【臨床例】

患者：70歳 男性

初診：平成25年11月21日

主訴：歯がぐらぐらし疲れた時に歯肉が腫れる
歯周病をくい止めたい

現病歴： 他院にて5年前から歯周病治療を開始し通院加療を続けるも、3年ほど経過し#16の予後不良にて口蓋根の抜去となった。またその際に上顎左右臼歯に外科的歯周治療を受けた。その後歯周病治療に対する不安があり平成25年11月21日当院を受診した。



図1 H25.11.21 初診時口腔内写真

- 現症：① #15 #16 間辺縁歯肉にフィステル
② #21 #23 辺縁歯肉軽度腫脹
③ #22 歯周ポケットより排膿
④ #25 #26 に冷水敏
⑤ ほぼ全顎に亘り6～9mmの歯周ポケットを認める
⑥ #14 #15 #16、#24 #25 #26
Aスプリントによる暫間固定

全身疾患： 特記事項なし

喫煙歴： 20代のころから1日約20本、40年間
現在禁煙中

レントゲン所見：



図2 H25.11.21 初診時パノラマ

- #15 #25 に根尖を囲む透過像が認められる
#22 支持骨の喪失が大きい



図3 H25.11.21 初診時

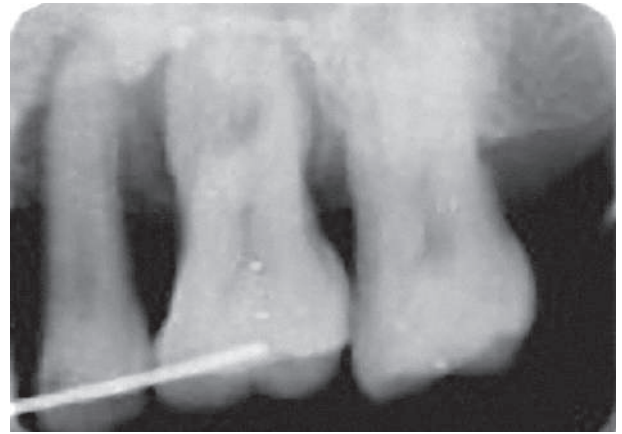


図6 H28.8.6 (初診より2年8ヶ月後)



図4 H26.5.15 (初診から半年後)
#27は対合歯がなく挺出



図5 H28.4.22 (初診より2年5ヶ月後)
輪状連結鉤セット後1年10カ月の状態

診断：全顎的重度辺縁性歯周炎

治療経過：

平成25年11月21日 #22 頬側辺縁歯肉に歯周ポケット無菌化処置 (PPS)

咬合調整 (座位で臼歯部側方運動時、前歯は特に上顎左右2番の前方運動時のあたりが強く主ガイドになっていたので調整を行った)

平成26年5月1日 #15 #16部 Aスプリント固定脱離 (初診より半年後)。#16 動揺度1
これまで全顎的歯周基本治療を優先にしてきたので、この段階でNIETを行い無菌化を図った

平成26年6月26日 Aスプリント固定が外れやすく#16は頬側根のみの為「安静」を確保する目的で#14 #15 #16 #17 #に輪状連結鉤をセットした (図7)

平成26年9月11日 #15 失活のため感染根管処置を行った。

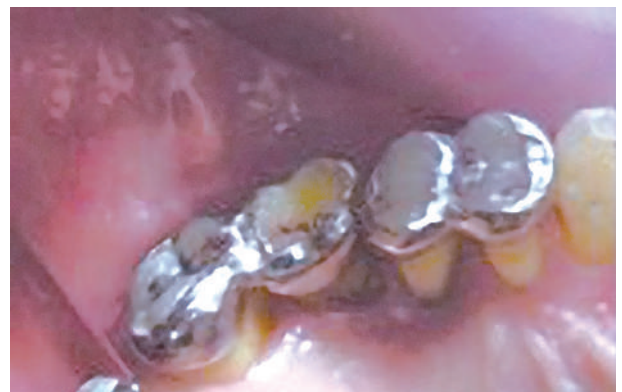


図7 H28.4.22 の状態 (初診より2年5ヶ月後)

【考察】

3Mix-MP 療法の歯周病治療は内科的歯科治療の概念と 3Mix-MP 法の必要十分条件に基づいている。

今回「安静」を確保するために、破壊的に働く咬む力から歯を守ることを目的に右上臼歯に輪状連結鉤を用いた。A-スプリントから輪状連結鉤に移行するタイミングとしては、A-スプリントが頻繁にはずれる、動揺度の改善が認められない、噛めないなどの症状が続く場合を目安にしている。

利点は

- ① 強固な固定が得られる
- ② 歯質削除量を最小限に抑えられる
- ③ 咬合調整が比較的楽である
- ④ 補綴物を外さずそのまま利用できる
- ⑤ 一部脱離しても除去し再セットが可能である
- ⑥ ブリッジとしても応用が可能である欠点は
- ⑦ 頬舌側カントゥアが大きくなる傾向がある
- ⑧ 審美性を害する場合がある

初診から約2年9カ月の時点で疼痛、腫脹等は出現せず患者は両側でよく噛めていると満足している。3Mix-MP 法における輪状連結鉤の有益性は大きいと考える。

参考文献

宅重豊彦：月刊 宅重豊彦 進化する
3 Mix-MP 法 . デンタルダイヤモンド社 .
東京 .34-43.2008.